

階上町民俗資料における一考察

根 城 隆 幸

要約 青森県三戸郡階上町より、資料収集館台帳整理事業について協力の依頼があり、八戸学院大学・八戸学院短期大学地域連携研究センターが受託して調査研究を行った。地域の文化財である考古・歴史・民俗等に関する様々な資料を、収集・保存・展示していくことは、地域住民の生涯学習に資する重要な活動である。本稿は、地域の民俗文化財を後世へ継承し保存していくための調査研究と、併せて小学校社会科教育への活用等を考察したものである。なお、本調査研究は八戸学院大学特別研究費を受けている。

はじめに

全国には多くの博物館が存在し、民俗資料の収蔵品を公開するなどの文化活動を展開している。地域の住民が民俗文化財を後世に継承していくことは、私たちの重要な責務であり、本学に隣接している青森県三戸郡階上町の民俗資料収集館も、その責務を果たしている。

階上町民俗資料収集館は、昭和58年に開館し、これまでも生涯学習に貢献するとともに、小学校の学習指導にも活用されている。小学校社会科3・4年生の教科書に、「かわってきた人びとの暮らし」という単元があり、「古い道具と昔の暮らし」が取り上げられている。小学校の教科書に掲載されている古い道具などが、民俗資料収集館に実物資料として展示されている。子どもたちの理解を深めるために、地域に保存されている古い道具を観察し、昔の暮らしに関する内容を体



階上町民俗資料収集館・内部

験できる貴重な施設が近隣にあることは重要である。このような施設を活用することにより、先人の知恵や工夫に気付いたり、地域の人々の生活がどのように変化してきたかを理解して、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていくなど言語活動の充実を図ることができる。

地域の文化遺産を継承し保存していくことが、今回の資料収集館台帳整理事業の大きな使命であり、将来性豊かな子どもたちの郷土愛に繋がっていくことになる。

1 事業開始

階上町の民俗資料収蔵品については、数年前から調査研究してきたことから、今回の事業を推進するに当たり、階上町教育委員会より八戸学院大学・八戸学院短期大学地域連携研究センターを通じて、資料収集館台帳整理事業についての依頼が寄せられた。

階上町の民俗文化財は、赤保内地区にある民俗資料収集館と金山沢地区にある金山沢水郷館（かねやまざわみさとかん）に収蔵されている。民俗資料収集館は、昭和30年代後半からの民俗資料収集の時代的背景があり、昭和58年に開館している。当初は、民俗資料の収蔵品について【資料基本カード】を作成して管理していた。しかし、その後も篤志家よりの寄贈品が増え続けて収蔵庫が狭隘化するなど、収蔵品の保管状況が充分でなく滅失することもあり、民俗資料収蔵品の全貌を掌握できないまままで今日に至っている。

そこで、今回の事業の工程を次のとおり予定した。民俗資料収集館に保存してあるすべての収蔵品について、棚卸しを実施し、調査・点検をしながら全貌を把握する。次に、項目ごとに分類し整理して、個別の地方名や説明文を作成するとともに採寸や写真撮影を行う。事業の集大成として、調査した資料を基に、「民俗資料収蔵台帳」の作成、「民俗資料収蔵目録」の発刊、「民俗資料収蔵データベース」の構築を行う。

収蔵品の移動については、民俗資料の全貌が把握できた段階で、民俗資料収集館において展示する内容と収蔵品を検討するとともに、金山沢水郷館へ移動するものを判断し、移動及び保存を行うことにした。金山沢水郷館へ搬入した収蔵品は、部屋の区画整理を行い、場所を選定しながら収蔵する。

また、今年度は資料収集館台帳整理事業として階上町の予算を確保できたので、専任の臨時職員を雇用し、町教育委員会と緊密に連携しながら円滑な業務の遂行に努める。



2 資料の収集

(1) 民俗資料

有形・無形の民俗文化財の実態を把握し、その保護を図ろうとするには、まず調査を実施しなければならない。階上町では、主に有形の民俗文化財を収集しており、これまでも調査して分類・整理し、地域の貴重な資料を継承して保存しようと務めている。

民俗資料としては、実物資料である「直接的資料」と、実物についての情報を伝えるために副次的につくられた「間接的資料」とがある。これらの民俗資料は調査して記録することにより価値あるものとなり、収集に際しての記録が重要である。「情報」には実物資料をさらに価値あるものとして位置づける、各種印刷物や写真・映像などがある。

(2) 民俗資料収集の方針

地域の民俗資料を体系的かつ継続的に収集するためには、資料収集の方針を明確に示すことが必要である。それは、町民の理解を深めるとともに、民俗資料の収集を促進することからも重要である。

現時点での収集方針は、明確には示されていないが、地域の民俗文化財を篤志家より受け入れ、将来に渡って継承し保存するように務めている。寄贈を受けて収蔵している民俗資料は、できるだけ公開するようにしており、地域への理解を深め、郷土に対する愛情を醸成している。

今回の資料収集館台帳整理事業を推進するに当たり、改めて階上町民俗資料収集館が担うべき使命を確認し、地域の特性を理解するとともに、人々の暮らしの変遷を辿れるようにするなど、収集方針を確認することも必要である。

(3) 各分野の収集方針

階上町民俗資料収集館では、階上地域の民俗資料を収集の対象としている。収集活動は、すでに50年程経過しているので、実物資料としての「直接的資料」はかなりの収蔵数を有している。

資料収集に当たっては、展示・収蔵するための施設・設備の関係もあるので、現在までに収集してきた民俗資料の中で、収蔵品が少ない分野について収集していくことが望ましい。特に、小学生が興味関心を持つような、古い道具を収集して昔の暮らしに関わる内容を収集するとともに、平和教育の観点から戦争に係わる資料や地域に関わる書籍や文書等は、散逸や消滅を防ぐうえから、積極的に受け入れを図る。

また、これまではあまり取り組んでこなかった、「間接的資料」についても民俗文化財を写真撮影するなどして、民俗資料収蔵目録と突き合わせて収集における重複を防ぐように取り組んでいくことが重要である。

なお、小学校3年生・4年生の施設見学が多いことから、子どもたちの体験学習に活用できる民俗資料については、積極的に収集していくことが望ましい。

3 現状と展望

(1) 各分野の現状

民俗資料収集館は、昭和58年に開館しており、当時の資料は手書きB5版の【資料基本カード】として保管されており、概ね700点である。

開館時の資料基本カード



表 面



裏 面

今年度の民俗資料収集館台帳整理事業を遂行していくなかで、改めて棚卸し作業を行ってみると未登録の民俗資料が多数存在しており、それを分類・整理してパソコンへ入力作業を行って集計すると、現在の民俗資料収蔵数は1,723点（平成28年3月）であった。

民俗資料の内訳は次のとおりである。

衣服123点、食事364点、住居210点、生業－農業187点、生業－漁業228点、生業－狩猟16点、生業－山樵30点、生業－畜産42点、生業－養蚕4点、生業－染・織45点、生業－手工33点、生業－諸職64点、交通・運輸・通信84点、交易62点、社会生活66点、信仰8点、民俗知識33点、民俗芸能5点、競技・娯楽・遊技34点、人の一生17点、戦争35点、その他33点。



唐 箕

(2) 今後の収集と課題

今後の民俗資料収集館の資料収集としては、次のようなことが課題として挙げられる。

保有している民俗資料収蔵品の全貌を把握できていなかったが、民俗資料収蔵台帳を作成できたので、民俗資料の収集について重複を防ぐことができる。また、手薄な分野を収集するために地域住民に対する広報活動を活発化する。

民俗資料は、階上町民俗資料収集館と金山沢水郷館に収蔵しており、その資料を合わせると相当な収蔵数となっているが、さらに新しい民俗文化財が収集されることが予想される。今後の収集に当たっては、資料が乏しい分野を中心に収集し、多くの資料を有する分野においては、時代的な流れの中で欠落している資料を収集する。

また、学習用としての民俗資料については、特に、小学校社会科の教科書に記載されている「かわってきた人びとの暮らし」の「古い道具と昔の暮らし」にあるように、時代の進展

につれて「おじいちゃん・おばあちゃんの時代」の資料は、新しいものへと変遷してきているので、大きく変化している道具に注視しながら収集する。

4 整理と保存

(1) 資料台帳の整理

民俗資料収集館が収集した資料は、【資料基本カード】というB5版の用紙に手書きのものが存在しているものの、作成当初からは年数を経ているので劣化しており、実際に収蔵・展示しているものとは著しい齟齬が生じている。

今年度は、民俗資料収集館台帳整理事業により、収蔵品の全体を把握して、民俗資料を分類して整理し、すべての情報をデジタルデータに変換してデータベースを構築し、一元管理できるようにするとともに、最新の「民俗資料収蔵台帳」の作成及び「民俗資料収蔵目録」を発刊した。

階上町の予算を確保できたので臨時職員を雇用し、収蔵品のすべてについて棚卸しを行い、民俗資料を各分野に分類して整理するとともに、採寸を行って計測した数値をパソコンへ入力した。収蔵品の写真撮影については、照明の具合により濃淡がはっきりせず何度も撮影のやり直しを行うとか、撮影場所に移動することが難しいものもあったが、何とかすべての撮影を終えて、画像情報についても入力作業を行い電子化することができた。

収蔵品については、当初の記録が残されていない項目があり、詳細な情報を得られないものもあるが、民俗資料収蔵品の情報を把握し、労力と時間を要したがすべての民俗資料収蔵品の文字データと画像データをパソコンへ入力し、民俗資料収蔵品のデータベースを構築することができた。



民俗資料収蔵台帳

(2) 資料台帳の運用と課題

民俗資料収蔵品のデータベースには、分類番号、資料番号、資料名（標準名・地方名）、員数、法量、受入情報や保存場所などの項目が入力されており、これらは目的に応じて幅広く利用することができる。これから新しい民俗資料を受け入れる際にも円滑に検索したり追加できるので、担当者は民俗資料情報の入力が容易になり、収蔵品の管理に役立つ。

町内の小学校には、社会科の教材として活用できるように、民俗資料収蔵目録とともに、DVDを配布している。特に、小学校社会科3・4年生で取り扱っている「かわってきた人びとのくらし」の「古い道具と昔のくらし」では、授業の教材として教室で提示するとか、民俗資料収集館へ見学に訪れる際の事前学習にも活用できる。

また、民俗資料収蔵台帳に掲載してある情報は、民俗資料収蔵品の閲覧用として作成したが、これからは新規データの迅速な追加・修正とホームページ等による一般公開などの継続的な広報活動が課題である。

5 収蔵品の保存

(1) 保存の在り方

民俗資料収集館で収集した資料は、民俗資料収蔵台帳に登録し、展示したり収蔵庫に保存している。民俗資料の保存に当たっては、将来にわたって民俗資料を役立てるために活用することを前提に、収蔵庫の条件や環境を整えるとともに、必要に応じて修復するなどの処置を施すことが望まれる。地域の民俗文化財を実物資料としてできるだけ現状のまま保存し、調査・研究や教育普及に活用できるように、保存・管理していかなければならない。保存の在り方として基本となるのが温度と湿度であり、展示・保存の際には、日光や照明に対しても十分なる配慮が求められる。

(2) 民俗資料収蔵庫

民俗資料は、階上町民俗資料収集館及び金山沢水郷館に収蔵している。民俗資料の収蔵品は、くらし・生業（農具・漁業）等を中心に階上町民俗資料収集館に展示しており、展示品以外は金山沢水郷館に収蔵してある。

民俗資料収集館の建物は、旧中央公民館として使用していた施設・設備を改修したものである。建設してから相当な年数が経過しているため老朽化しており、天井とか壁面などの破損が目立ち、民俗資料の展示施設として建設しているわけではないので、収蔵場所としては十分な環境が整っているとは言い難い。

金山沢水郷館は、旧金山沢小学校を改修して地区の集会所に使用しているものである。現在は、一階を集会所等として使用しており、建物の二階に民俗資料を収蔵しているが、普段は締め切っているため定期的な換気が必要である。

できるだけ民俗資料収集館に近い地域に場所を確保し、温度や湿度等についても管理できるような設備を有することが望ましい。民俗資料を良好な環境で保存していかなければならないので、収蔵庫の確保は民俗資料を後世に継承するという意識をもって配慮することが望まれる。



階上町民俗資料収集館



金山沢水郷館

(3) 保存の状況と課題

民俗資料収集館は、収蔵庫として飽和状態に近い。保存環境としては、地理的に年間を通して冷涼であり温度に関しては特段の心配はないが、湿度については特段の管理が求められる。太陽光については、できるだけ避けるように配慮して、直射日光が当たらないようカー

テン等を設置している。室内の照度については、設備の関係もあるが、民俗資料に多大な影響を与える状況にはない。天井や壁面の破損箇所は、今回の事業費を工面して補修することができたが、今後も外壁等の補修については配慮を願うものである。

金山沢水郷館は、常時活用しているわけではないので収蔵庫として使用している部屋は締め切っていることが多い。民俗資料を収蔵している部屋は、薬剤を使用して殺虫・殺卵・殺菌等を考慮するとともに、年間を通して定期的に室内の換気を行うような対策が必要である。

将来的には、収蔵品の増加が予想されるので、さらに収蔵庫の増設等も検討していかなければならない。

6 情報の収集と整理

(1) 民俗資料情報

民俗資料情報とは、民俗資料そのものとともにそれを取り巻く情報である。民俗資料の直接的資料である「モノ」の収集・保存とともに、民俗資料の「情報」は間接的資料であり、記録を集積することも重要である。民俗資料の情報としては、文字情報とともに、静止画像（デジタル）、動画（ビデオ）、音声記録に加えて、文献（書籍・報告書・論文・記事等）がある。

(2) 民俗資料情報の整理

収集した民俗資料情報を「モノ」と関連づけて整理・保存して、町民の共有財産として展示・公開していくことが生涯学習の一助ともなる。

民俗資料については、収蔵品の台帳を作成するとともに「民俗資料収蔵目録」を作成したので、直接的資料とともに間接的資料も活用できるようになった。今後とも継続的に地域の調査報告書や民俗関連の出版物の収集にも心掛けていく必要がある。

また、間接的資料の復元模型なども、積極的に取り入れてこれらの資料を展示するなど、小学校社会科3・4年生の教材として活用していくことが望ましい。



東京書籍：社会科教科書

(3) 調査・研究情報の集積と活用

地域においては、階上町の有志による歴史研究会がさまざまな調査・研究を進めている。その他にも地域の個人から民俗資料の提供がある。こうした民俗資料の情報を精査しながら、民俗資料収蔵館で整理・保管し、それを小学生や町民に向けて公開するシステムを作る必要がある。しかし、これを階上町教育委員会の限られた職員で対応することは難しいので、ボランティアを呼びかけて養成するなど、地域遺産としての民俗資料情報を集積し活用していく人材を確保することが求められる。

(4) 民俗資料情報の保存

民俗資料に付帯する情報として、写真（動画を含む）等の映像による存在はとても大きい。民俗資料における写真等の映像は、収蔵品の使用方法等を把握するために貴重なものであり、民俗資料の収集に当たって写真による情報をデジタルデータとして整理・保存するとともに、公開方法を検討することも重要である。

民俗資料情報の収集については、資料名、員数、法量、収集時期、収集場所、使用方法などの受入情報を記録するとともに、写真撮影を行うことが必要であり、貴重な資料となる。個別の民俗資料について写真撮影し、その分野の代表的な民俗資料は展示するとともに台帳を整理して目録等にも掲載していくことが重要である。また、できることなら静止画としての写真だけでなく、動画や音声等による民俗資料の使用法についても保存することが大切であり、保存媒体や保存方法についても検討する必要がある。

7 収集・整理・保存と地域活動

(1) 地域住民・自主団体との協働

民俗資料収集館は、階上町の施設であるが、運営は歴史研究会の方々によるボランティアである。毎月第2火曜日・第4火曜日に開館しており、町教育委員会の担当者が主幹している。学芸員は在籍していないので、おのずと専門分野も限られたものであるが、制約のあるなかで地域の文化施設として存続していることは意義深い。民俗資料収集館は、これまでも地域住民や歴史研究会の支援を受けながら活動し、地域住民に生涯学習の機会を提供している。民俗資料の収集・整理・保存に町民が関わることは、民俗資料収集館の文化活動を充実させるだけではなく、自主団体の活動や町民の地域に対する文化遺産の知識や関心を高めることになる。

地域の文化遺産を後世に継承するという観点からも、地域住民や自主団体が民俗資料の収集・整理・保存に貢献し、民俗資料収集館と協働していくことは、今後とも継続していかなければならない。地域の文化遺産である民俗資料は、各地域で急速に失われつつあるが、地域の貴重な財産としてできるだけ保存していくことが重要である。

(2) 町教育委員会と地域住民との連携

民俗資料収集館の管理や運営は、町教育委員会の職員が担当しており、これからも継続していくだろうが、民俗資料の業務に専門的に関わることは限られている。民俗資料に関わる知識・技術を広く深く習得することは、地域の文化を理解し大切に保存しながら継承していくことになるので、地域住民との関わりを深めることが重要である。民俗資料の収集は、地域住民からの情報が不可欠であり、広報活動を通して協力を依頼することも検討すべきである。

公開については、階上町立小学校3・4年生の児童が見学者として毎年訪れていることから、地域の小学校とも意見交換しながら連携していくことが重要である。

(3) 民俗資料情報に対する地域住民の支援

地域の自主団体等が、町教育委員会と連携して、各分野の民俗資料の情報を収集・整理・

保存し、地域の方々に民俗資料の情報を提供することで、地域文化の醸成を図ることの意義は大きい。それは地域の文化遺産を後世に継承することにも繋がるので、地域住民や自主団体等の支援を求めながら、質の高い価値ある民俗資料情報の収集・整理・保存に貢献するなどして、より深い知識や技術を習得しながら継承していくことが望まれる。



学生の協力

(4) 地域住民活動としての資料の収集・整理・保存

多くの地域住民が直接関わることはそれほど多くはないだろうが、民俗資料の収集を考えるうえで、地域住民が文化遺産に対する意識を持って関わるべきである。重要なことは民俗資料情報の提供であり、民俗資料収集館に地域の情報が集積され、それが収集・整理・保存へと進展することに繋がり、地域の民俗文化財に対する意識の啓発になる。

8 民俗資料台帳整理事業の成果

今回の民俗資料台帳整理事業を受託して、階上町が民俗資料として収蔵している民俗文化財を調査することにより、地域の文化遺産としての民俗文化財の全貌を把握することができ、「民俗資料収蔵台帳」を整備するとともに、「民俗資料収蔵目録」を発刊することができた。

具体的には、次のとおりである。

- ①民俗資料収蔵品の実物資料を把握し、標準名・地方名等のデータをパソコンへ入力
- ②写真撮影を行って、画像データをパソコンへ入力
- ③分類番号・標準名・地方名・使用方法等を掲載した「民俗資料収蔵台帳」を作成
- ④民俗資料収集館の収蔵品を分類・整理し、展示する資料と移動する資料を選別して、移動する資料については金山沢水郷館へ搬出
- ⑤民俗資料収集館に展示する民俗資料について、資料名や使用法などの解説を表示
- ⑥民俗資料収集館の施設について、天井や壁の剥落を補修するとともに、直射日光を遮るために設置していたカーテンや布地などを新調して改装
- ⑦民俗資料収蔵台帳を基に、民俗資料を分類・整理して、使用方法についても解説を加え、写真及び資料名の索引を掲載した「階上町民俗資料収蔵目録」を発刊
- ⑧民俗資料収蔵品について「DVD」を作成し、民俗資料収蔵目録とともに、地域の小学校・中学校及び関係各位に配布
- ⑨民俗資料収蔵台帳の電子化により、データの追加・修正等の効率化

これらのことから、地域の民俗資料収蔵品を町民はもとより広く一般の方にも広報できるとともに、データは電子化してあるので、小学校の学習教材等でも容易に利用できる。

9 学校教育での民俗資料の活用

(1) 小学校社会科の改訂

小学校学習指導要領では、社会科の改善の基本方針について、次のように示されている。「○我が国及び世界の成り立ちや地域構成、今日の社会経済システム、様々な伝統や文化、宗教についての理解を通して、我が国の国土や歴史に対する愛情をはぐくみ、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに、持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視する方向で改善を図る。」

上記の基本方針を踏まえて、改善の具体的事項について、以下のように示している。

「(イ)……例えば、縄文土器が使われていたころの人々のくらしに関する内容を新たに加えたり、歴史的事象との関連で取り上げる代表的な文化遺産を例示したりするなど、伝統や文化に関する内容の充実を図る。……」

社会科の内容の改善として、

①……第3学年及び第4学年においては、各学校が2年間を通して、地域の実態に応じて内容の順序や教材の選定を工夫するなど、地域に密着した学習が弾力的に展開できるよう、……次のような改善を図っている。

- ・身近な地域や市（区、町、村）の地形、土地利用、公共施設などに関する内容については、新たに「古くから残る建造物」……
- ・地域の生産や販売に携わっている人々の働きに関する内容……
- ・地域の人々の健康を守るため……「資料を活用したり（して調べること）」や、「良好な生活環境（の維持と向上に役立っていることを考えるようにする）」……
- ・地域の人々の安全を守るため……「災害及び事故の防止」……、「資料を活用したり（して



学習指導要領



近隣小学生の施設見学

調べること)や、「地域の人々(の工夫や努力を考えるようにする)」、「関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること」……

・地域の文化財や年中行事……「地域の人々が受け継いできた(文化財や年中行事)」……

(2) 小学校社会科第3学年及び第4学年の目標・内容

ア 社会生活についての理解

……人々が相互に様々なかかわりを持ちながら生活を営んでいることを理解するとともに、自らが社会生活に適応し、地域社会や国家の発展に貢献しようとする態度を育てる……

イ 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情

……地域の人々の生活や変化や地域の発展に尽くした先人の働きの指導を踏まえ、我が国の歴史に対する理解を深めるとともに、我が国の歴史に対する理解と愛情を育てる……

ウ 第3学年及び第4学年の内容

第3学年及び第4学年の内容は、地域社会の社会的事象について、次の六つの項目から構成されている。

- (ア) 身近な地域や市の地形、土地利用、公共施設などの様子
- (イ) 地域の生産や販売に携わっている人々の働き
- (ウ) 地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動
- (エ) 地域の人々の安全を守るための活動
- (オ) 地域の古い道具、文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の具体的事例

エ 「地域の人々の生活」の移り変わり

- (ア) 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子
……地域の人々の生活の変化を考える手掛かりとして、古くから残る暮らしにかかわる道具と、それらを使っていたころの暮らしの様子を調べる……。



東京書籍(2014)『新編新しい社会3・4年上』

「古くから残る暮らしにかかわる道具」を調べるとは、現在も残っている暮らしに使われた昔の道具を取り上げ、道具の様子やそれらの使い方などを具体的に調べることである。

ここで取り上げる道具は、日常の生活と密着した道具が適当である。例えば、暖房に

使われてきた道具を見ると、いろり、火鉢、こたつ、ストーブ、エアコンなどいろいろな変化してきている。ここでは、道具そのものの変遷を学習することで終わることなく、それに伴って、地域の人々の生活がどのように変化してきたのかを考えることができるようにすることが大切である。

「それらを使っていたころの暮らしの様子」を調べるとは、古くから残る暮らしにかかわる道具を使っていたころの人々の暮らしの様子を取り上げ、地域の人々の生活が変わってきたことを具体的に調べることである。

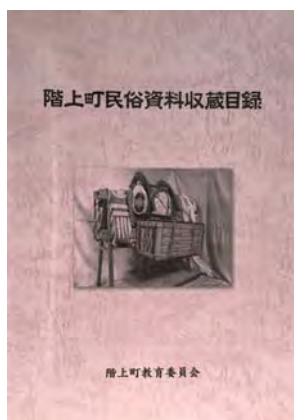
暮らしを取り扱う時期については、例えば、地域の高齢者が子どものころ、父母が子どものころ、及び現在の時期が考えられる。それらと現在の自分たちの生活の様子を比べながら、地域の人々の生活が変化してきたことを考えるようにする。また、ここでは、現在の自分たちの生活は祖先の努力の上に成り立っているという歴史的背景に関心をもつようにすることも大切である。

実際の指導に当たっては、社会科を学習する児童にとって初めての歴史的な内容であることに配慮し、見学や体験を取り入れるなど、学習が具体的に展開できるようにする必要がある。例えば、地域の博物館や郷土資料館などにある昔の道具を観察したり、高齢者や父母からかつて生活に使用していた道具の使い方を教わり体験したりする活動が考えられる。

これらの学習を通して、過去の生活における人々の知恵や工夫に気付いたり、地域の人々の生活の変化や人々の願いを考えたりするとともに、地域の変化や地域社会の発展を願ってきた人々の行き方に触れるようにする。

民俗資料収集館の来館者は、主に小学校3年生・4年生であり、展示、体験等の様々な学習の機会を提供しているので、学習指導要領に記載してある内容について十分に活用できる施設である。学校からの依頼があると、町教育委員会の職員が民俗文化財の実物資料を持参して訪問授業を行うことも実施している。

これからは小学校の教師が開発した授業計画案などを収集し、地域として民俗資料収集館を利用する方法について、検討していただきたい。



階上町民俗資料収蔵目録

おわりに

階上町の民俗資料を収集・整理・保存するということは、地域住民からの貴重な寄贈品を調査・研究して生涯学習に役立てることであり、地域の文化遺産を後世に継承していくことで、それは民俗資料収集館の基本的な使命である。

民俗資料収集館は、貴重な民俗資料を後世に残す施設であるが、継承していく意識は地域住民も担っていかなければならない。何を後世に継承して行くのか、地域住民と関係者がともに考えていかなければならない。階上町教育委員会にすべてを委ねるのではなく、子孫に何を残していくのか、民俗資料収集館の存在意義をともに考えていかなければならない。

階上町では、旧小学校の校舎を改修して集会所に使用するなど、地域にある施設設備を有効に活用している。また、民俗資料を適切に保存や展示するためには人的資源の活用も欠かせない。現在は歴史研究会の方々に運営を委託しているが、会員の方々は高齢者が多いので、これからはボランティア活動についても検討していかなければならない。

広報活動については、「民俗資料収蔵台帳」や「民俗資料収蔵目録」も揃ったことであり、これを有効に活用するため町の『広報はしかみ』に掲載するとか、ホームページから閲覧できるようにするなど広く一般に情報を公開することが求められる。

地域の小中学校へも「民俗資料収蔵目録」と「DVD」を配布しているが、継続的な広報活動を働きかけることが重要である。特に小学校3年生・4年生では、社会科教材として活用できるものであり、民俗資料収集館の施設見学をする際には、是非、事前学習に利用していただきたい。

長い歴史を経ている民俗資料収集館だが、町民の目に触れる機会が多くないのが現状である。階上町の民俗資料収蔵品は、歴史的意義のある地域の貴重な民俗文化財なので、地域住民が民俗資料の収集や保存活動に貢献することにより、先人の働きについて理解することができ、郷土愛を養うことになる。民俗資料収蔵台帳整理事業により、地域の民俗文化財を収蔵している民俗資料収集館の収蔵品を整理することができたので、地域住民の“智のセンター”として、生涯学習の一助にもなるものと期待する。

結びに、民俗資料台帳整理事業に伴い、民俗資料の分類・整理や収蔵品を移動するに際しては、八戸学院大学の学生にも協力いただき、円滑に業務が推進できたことを感謝申し上げる。地域の文化遺産を後世へ継承して、地域住民はもとより広く一般の生涯学習に役立てるよう心掛けた。調査研究の機会をいただき、成果物ができるだけ多くの関係者に活用され、民俗文化財保護の進展が図られることを望んで、階上町の関係各位に深くお礼申し上げます。

参考文献・資料

- 文化庁内民俗文化財研究会（1979）『民俗文化財の手びき』第一法規
八戸市博物館（2007－2013）『八戸市博物館収蔵目録』（1）～（7）
文部科学省（2015）『小学校学習指導要領解説社会編』
東京書籍（2014）『新編新しい社会 3・4 年上』
加藤公明（2015）『子どもの探求心を育てる博物館学習』歴史民俗博物館振興会
栃木県立博物館（2015）『第112階企画展 川のあるくらし』
東京国立歴史民俗博物館HP <https://www.rekihaku.ac.jp>
階上町HP <http://www.town.hashikami.aomori.jp>